

キャンプ・アーメックが東京YMCA 長期キャンプに及ぼした影響

○谷戸一雅（余暇問題研究所）

高橋和敏（余暇問題研究所）

キーワード：キャンプ・アーメック、長期キャンプ、野尻学荘、東京YMCA

1. はじめに

1932年7月、東京YMCA野尻学荘（以下野尻学荘と略）は、男子中高校生のための長期キャンプとして設立された。設立以来、第二次世界大戦による三度の中断はあるものの1995年7月で60回目のキャンプを迎え日本では歴史あるキャンプとして知られている。

今日までの60年余り、野尻学荘を支えてきた東京YMCAや協力者の努力は当然ながら、その設立に心血を注いだ人々の努力もまた忘れてはならない。そもそも野尻学荘は、「少年の成長を啓発する場」¹⁾として用意され、「具体的なキャンプの見本としてはキャンプ・アーメックがあり・・・略」²⁾と見られるように、青少年の成長を掲げキャンプ・アーメック（以下アーメックと略）を手本に設立された。このように設立時にキャンプの趣旨を明確に打ち出し、それを実現すべくモデルの存在が今日に至る伝統を築いたのだろう。

その伝統を省みることは、今後キャンプをはじめ様々なレクリエーション活動を展開する上で大いに参考になるものと思われる。そこでこの伝統を生み出したひとつの源流ともいえるアーメックの影響、存在を検討するに至った。そしてそのために、文献を中心に次の項目に沿って検討を進めた。1)野尻学荘の設立経緯 2)野尻学荘設立時のアーメックの概要 3)アーメックの影響。さらにアーメックについては現地視察も行った。

2. 野尻学荘の設立経緯

野尻学荘は前述の如く、1932年（昭和7年）7月長野県野尻湖畔に設立された。設立当初からいわゆるレジデンシャル・キャンプの形態をとり、グループ・ワークを重視し、水泳、カヌー、登山、絵画、音楽など様々なプログラムが展開されてきた。設立当初においては、最長5週間のキャンプ期間を設定していた。その後、戦争など社会情勢の影響を受けキャンプ期間は短縮されたりしたが、1952年（昭和27年）から2週間に定められ今日に至り長期キャンプの伝統は守られている。

その設立過程をみると、まず初めに着目すべき点は東京YMCAの少年事業であろう。1923年（大正12年）東京YMCAは少年事業において全人教育の実践をめざした。全人教育とは「青春時代の青少年を、グループシステムにより智育、霊育、体育、奉仕、訓練の諸方面より指導する」³⁾ことであり、青少年の望ましい成長を目的としていた。その実践の場のひとつとしてキャンプも行われていた。

次に注目すべき点は、この少年事業に小林弥太郎（以下小林と略）が関わっていたことであろう。小林は1922年（大正11年）から少年部の委員として東京YMCAに奉仕し、中でもキャンプ活動に多大な貢献をしていた。小林は1931年（昭和6年）アーメックを訪問し、その施設やプログラムなどに深い感銘を覚え、長期キャンプ設立へ向けて影響を受けた。そして自らキャンプ地を野尻湖畔に入手し、東京YMCAに寄贈した。一方、東京キリスト教

青年会百年史によれば、東京YMCAもキャンプの教育的効果をより推進するため長期キャンプの導入が検討され、先の小林の寄付もありその結果野尻学荘が設立された。

3. アーメックの概要（野尻学荘設立時）

アーメックは1921年、テイラー・スタットンによって設立された少年を対象としたキャンプである。カナダのオンタリオ州アルゴンクイン・パーク内カヌー・レイク畔にある。

1930年頃のアーメックの様子は、H. S. DIMOCK, C. E. HENDRY編「CAMPING AND CHARACTER」に詳細は述べられている。それによれば、アーメックは、基本的にはキャンプにおいて少年の人格形成、成長を掲げ、その実現のために数週間のキャンプ期間を設定し、カヌー、ヨット、クラフト、水泳、乗馬など自然を十二分に生かしてプログラムを展開していた。

4. アーメックの影響

アーメックが野尻学荘に影響を与えたと思われる一例をあげてみる。

1) キャンプの特色・・・第1回野尻学荘の参加者募集広告には、キャンプの特色として「長期間の個人的指導」、「個性と社会性の助長」など教育的側面をあげている。

アーメックにおいても、キャンプは人格形成や社会性の発達過程などに関し、有用な側面を持つとしている。

2) プログラム・・・前出募集広告プログラムの項をみると、「プログラムは、参加者、両親、指導者の三者の希望を基礎として作成する。指導者として我等は、次のごとき諸点を助長したいと希望する。」⁴⁾とある。「次のごとき諸点」として、「1. 天分や興味を発見してそれを助長したい」、「2. 他人と協力して考えたり仕事をする習慣を助長したい」など9項目みられる。アーメックはキャンプの展開にあたり、参加者、両親、指導者の目的を把握し、それを統合してキャンプを進めている。また、指導者の目標をみると野尻学荘の「次のごとき諸点」に色濃く反映していると思われる点が多くみられる。

5. まとめ

アーメックが、野尻学荘に及ぼした影響として考えられる点は、キャンプの特色、プログラム、期間、目的などハード、ソフトの様々な面にあると思われる。ともすると、ハード面のみを重視する例が目立つが、野尻学荘はソフト面でもアーメックを参考にし自らの姿勢を創造してきた。アーメックは設立以来、独自の姿勢を保ち75年、現在は創設者テイラー・スタットン三世が運営にあたっている。その伝統は脈々と受け継がれ、キャンプの根幹にある思想の重要性を物語る好例ではないだろうか。このアーメックを支える思想が野尻学荘に継承され60有余年にわたる伝統を築き上げてきたものと考えられる。

引用および参考文献

- | | | | | |
|----------|-----------------------|----------------------------|--------|---------|
| 1)、2)、4) | 東京YMCA | 光に歩めよ | 東京YMCA | 1996年3月 |
| 3) | 東京キリスト教青年会 | 百年史 | 斉藤 実 | 1980年5月 |
| 5) | 東京YMCA | その生涯は水晶の如く | 星野達雄 | 1980年6月 |
| 6) | ASSOCIATION PRESS | | | |
| | CAMPING AND CHARACTER | H. S. DIMOCK, C. E. HENDRY | | 1929年 |